

西日本コンピュータ株式会社新社屋

Nishinippon Computer Co., Ltd. New building

No. 19-008-2013作成
新築
事務所

発注者	西日本コンピュータ株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	(株)安藤・間 九州支店一級建築士事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	(株)安藤・間 九州支店	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

次世代のための新しいオフィスの実現

計画趣旨

当計画は、コンピュータシステム開発会社の本社新社屋の建替え計画である。

新社屋建設にあたり施主から求められたオフィスビルは、職場環境改善を中心とした業務の効率化や、組織の枠を超えた活発なコミュニケーションが容易に出来る空間を配し、想像力が高まるような施設であり、かつ環境への影響にも考慮されたオフィスビルである。

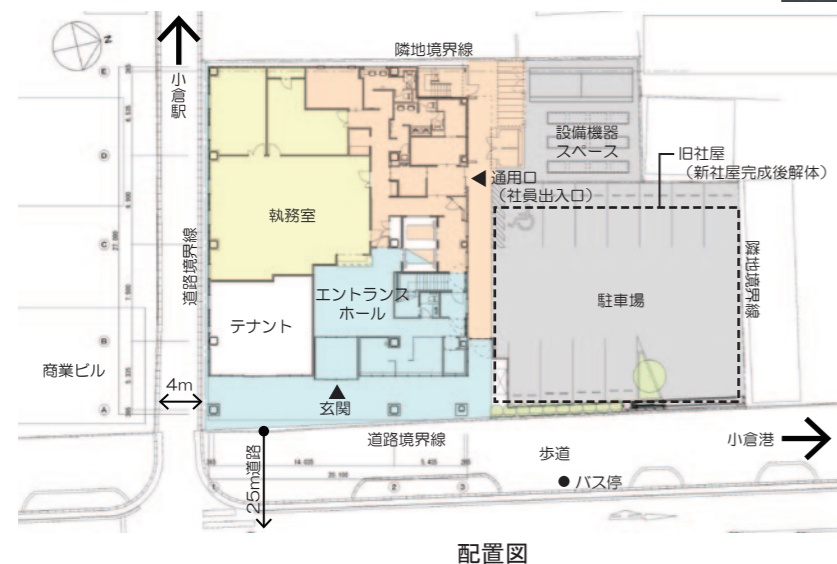
周辺環境とゾーニング

当計画地は、福岡県北九州市の主要駅である小倉駅から程近く、周辺は商業施設や事務所ビルが並び、人・車とも交通量が多い。建設当初は、敷地内の北側半分に旧社屋があり、新社屋完成・引越し後に解体する。よって、敷地内の限られたスペースが新社屋の建築可能なスペースであり、平面的な制約がある中での設計となった。

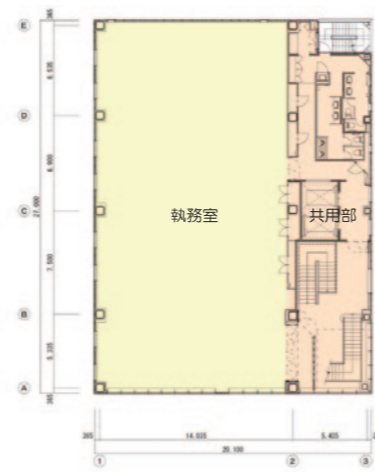
東側の主道路に対して正面玄関を設け、旧社屋解体後の駐車場側から通用口(社員出入口)を設けた。来客動線と社員の主動線を分離し、社員がスムーズに共用部(エレベーター・階段・WC・廊下)へアクセス出来るように、北側片側コアを採用した。



外観(前面道路 北東側から)



配置図

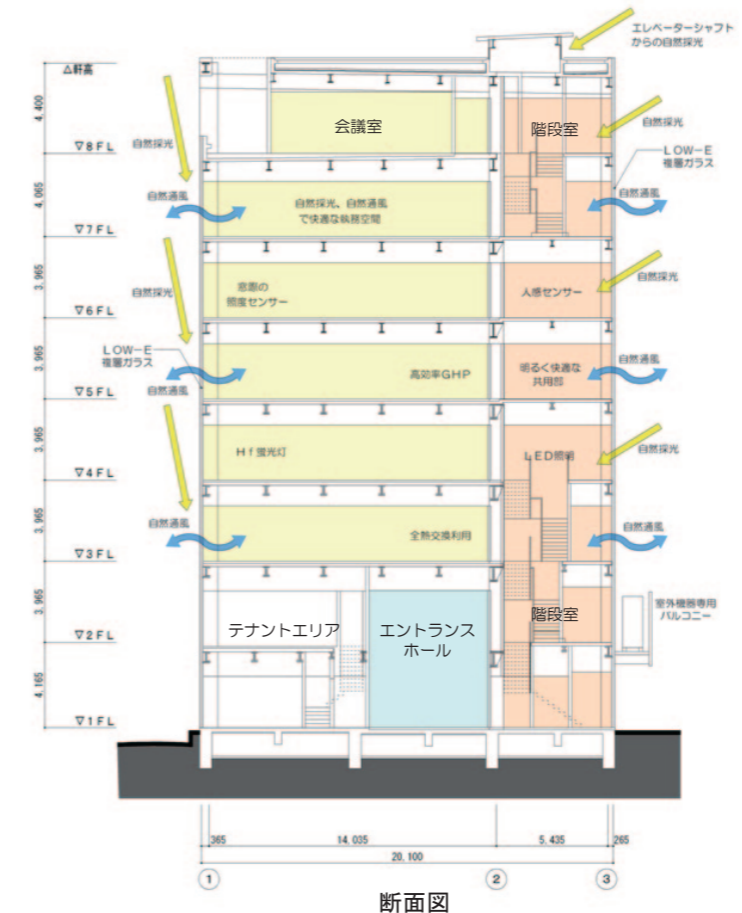


基準階平面図

環境配慮・安全性・防災

屋根・外装・床の断熱を十分に行うと共に、省エネに配慮した立面計画を行った。メインファサードとなる東側は全面カーテンウォール、北・南・東面はそれぞれ内部の空間に適したサッシを設けた。開口面積を方位毎に制御することにより、無駄な開口部をなくし効率的な省エネ計画をおこなった。

避難安全検証法で火災時の避難時間を検証し大臣認定を取得した。共用部を快適な空間とすると共に、安全性の高い建物とした。耐震性として、建築基準法規定の地震力1.25倍の構造計画とし、特に重要な諸室であるサーバ室には、免震床システムを採用した。



断面図

省エネに配慮した設備計画

照明設備は、共用部にLED照明、執務室にHf蛍光灯を採用し、照度・人感センサー制御を行っている。空調設備は、高効率GHPとし、全熱交換機による換気システムを採用した。サーバ室は安全性を重視し、免震床システムのOAフロアを利用した床噴出し・天井リターン空調方式とし、冗長性を考慮した機器を設置した。

設計担当者

統括：坂本高浩/建築：東章博、徳川恵梨/構造：伊藤隆之、片山喜隆/設備：富岡浩/電機：郡司清、高野剛
施工：川井貴雄、岡田和敏、片平陽大

主要な採用技術(CASBEE準拠)

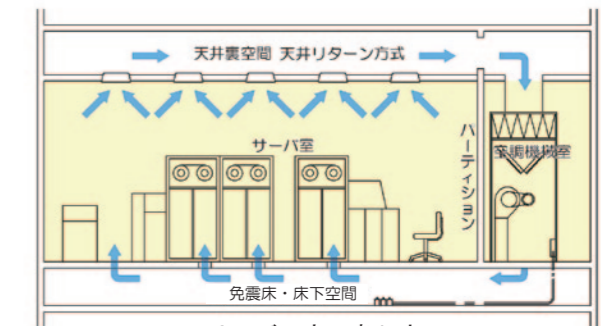
- Q2. 2. 耐用性・信頼性(サーバ室の免震床システム採用)
- Q2. 3. 対応性・更新性(室外機専用スペースによる維持管理のしやすさ)
- LR1. 1. 建物の熱負荷抑制(Low-E複層ガラスの採用、建物方角による立面開口の検討)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用(自然換気、自然採光、エレベーターシャフト利用の自然採光)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化(ERRの向上、LED照明・照明センサー制御・GHPの採用)

専有部・共用部の考え方

執務室は奥行き14.4m、約380㎡の無柱空間で、将来の自由なレイアウトが可能である。エレベーター、階段、廊下の平面配置を工夫することで、専有部と共用部がなだらかにつながった中間領域ができ、社員の活発なコミュニケーションが生まれるような場とした。共用部は、自然採光・自然通風を取入れ、明るく快適な空間とし、エレベーターシャフト上部からも自然光を取入れる工夫を行った。



執務室と共用部(階段室~廊下)



サーバー室の考え方

建物データ	
所在地	福岡県北九州市
竣工年	2013年
敷地面積	1,097㎡
延床面積	4,019㎡
構造	S造
階数	地上8階

省エネルギー性能	
ERR(CASBEE準拠)	29%

